

# カトリック六甲教会 教会報

2008

10

No.442

## 司祭叙階にあたって

片柳 弘史 神父

皆様、このたびはわたくしの司祭叙階および初ミサにあたって、たくさんのお祈りと励ましをありがとうございました。お陰様で、9月20日東京の聖イグナチオ教会において無事に司祭叙階の恵みをいただくことができ、またその翌日には六甲教会で初ミサを立てる恵みをいただくことができました。

叙階式から数日が経過しましたが、まだ司祭になったという実感が湧いてこないというのが正直な感想です。「片柳神父」と呼ばれると、何か別の人が呼ばれているように感じます。これまでに10年以上神学生、あるいは助祭の時期が続いていましたから、意識を切り替えるのにまだしばらく時間がかかるかもしれません。

初ミサの祝賀会でもお話ししましたが、新司祭として一番やりたいことは、御ミサや「ゆるしの秘跡」、「病者の塗油」などの秘跡を通して、皆さんとイエス・キリストとの出会いをお助けすることです。

今から10数年前、カルカットで司祭職を目指すかどうか迷っていた時期に、ある新司祭の初ミサに出席したことがありました。その御ミサの中で新司祭が御聖体を会衆の前で高々と掲げ、イエス・キリストの臨在を宣言した時、わたしは「ああ、これが司祭職なんだ」と感じ、わたし自身もこのようにはっきりとした目に見える形でイエス・キリストの臨在、そしてそこに込められた神の愛を人々に伝えていくことができたらしいと思いました。そのときの思いは、今でもわたしの心の中に熱く生きています。

この世界には、貧しい国でも豊かな国でも同じように「自分にはこの社会の中で生きていく価値がない、わたしは誰からも愛されていない」と感じて絶望している人がたくさんいます。そのような人たちに聖体祭儀を通して「いやそんなことはありません。ここにこうしてイエス・キリストがおられ、皆さんを心の底から愛しています」と語りかけたい、それが新司祭としてのわたしの切なる望みです。

皆様方にはこれからさまざまなことでお世話になり、また御迷惑もおかけすると思いますが、1日も早く一人前の司祭になれるよう努めたいと思いますので、どうぞ温かくお見守りくださいますようお願いいたします。

叙階式、初ミサの写真はわたしのブログで公開しておりますので、どうぞご覧ください。

《ブログのURL》 <http://d.hatena.ne.jp/hiroshisj/>



# 信徒の教会づくり

わたしたちの「信徒の教会づくり」を考えていくために、いろいろな方に様々な考えを述べて頂くコーナーです。ご自分の思うところを投稿頂き、みなさまの意見交換の場になれば、と願っています。

## 教会学校リーダーとして

吉村（教会学校リーダー）

今回何か書いて欲しいと言われたので最近感じていることを書いてみたいと思う。

私が教会学校リーダーを始めて 13 年になる。その間に何人もの若いリーダー達が就職などで巣立っていった。私がリーダーを始めた頃と最近の教会学校の様子の違いが大きくある。それは最近若いリーダーが少ないこともさることながら、六甲教会で育ってきた若者達がほとんどいないという現状である。現在在籍している子どもの数は 79 名 小百合児童館の閉館にも関わらず少し減ったとは言えその数は 10 年前とさほど変わらない。リーダー数は司祭を含め 19 名。数字だけみるとこれは少し多いかもしれない。でも常時関わっているリーダーは 11~12 名なのでこれも 10 年前とあまり変わっていない。

しかし、年齢分布、洗礼を受けているリーダーの割合を見ると大きく変化している。年齢分布でみると、20 代までの若者が 10 名、40 代 3 名、50 代以上 5 名となっている。また若者 10 名の内 5 名が洗礼を受けていない若者である。これは、若いリーダー不足への危機感から一人の信者のリーダーが、先輩・友人・後輩たちに声をかけてリーダーをお願いした結果、それらの洗礼を受けていない若者たちが参加してくれたことによる。声をかけた若者がいなかったら、そしてその呼びかけに応える若者たちがいなかったなら、教会学校は確実に立ち行かなくなっていた。そしてその若者達がここ 1~2 年で巣立ちの時を迎えようとしている。これをどうしたらよいか。教会学校は若者のリーダーの確保に課題をかかえているのである。

教会学校の子どもたちは素直でとても元気が良い。いろいろな世代の人たちがリーダーとして関わるのは「私たちは神さまを囲む神の家族」を体現する共同体としてとても良い場となっている。幼い頃に信仰共同体の実感を味わうことは、子どもたちの将来への財産、信仰の土台形成になると思っている。しかし、いくら元気な年配者が集まったとしてもあの元気一杯の子どもたちの相手をするには、体力的に限界がある。若いリーダーが必要なのである。

教会学校のリーダーたちは先ほども書いたようにいろいろな世代の人たちが集まっている。それぞれが互いを大切に思いそれぞれの役割を果たしており、先月号のマシア神父さまの記事「ひとつになろう」が生かされているところだと思っている。そして世代を超えてとても親しく交われる他にない不思議な場でもある。それは多分学校や職場、家庭生活の場では出会えない人との交わりの場となっている。今書いていて思ったのだが、要理を教えるより何よりこの姿がじかに子どもたちに神さまの家族、イエスの仲間、キリストにおける交わりということを伝えているように思う。教会学校は伝統的に教会「学校」と呼ばれているが、実際は、「学校」というよりも「子どもたちを中心にした信仰共同体」である。ここでの体験は「教会体験」そのものとなっている。

とにかく若者たちよ（どれだけこれを読んでいるかわからないが）、「この指とまれ！」である。是非参加して欲しいと願っている。



## 朗読奉仕者勉強会

日時： 8月17日(日)・8月24日(日) 11:15～12:00

参加者： 20名

典礼部 堤

朗読のスピードが早すぎるために意味が解りにくい、マイクの調整が悪く声が聞き取れないことがある、単に読んでいただけと感じられる等、朗読者に対する様々なご意見をお聞きし、8月に典礼部の堀川様に講師をしていただいて、朗読の勉強会を行いました。

内容は、基本的動作、マイクの使い方、発音等についてのお話がありました。

その中で、「会衆が朗読者の服装に気をとられることがないように、朗読者としてふさわしい清楚な服装を心がけるように」というお話は、とても新鮮にひびきました。

分ち合いの中で、朗読者の方々は、それぞれのやり方で準備をされ、聖書を深めるための努力をしておられことをお聞きし、私ももっと聖書を読まなければならないという思いを深めることができました。

最後に、「朗読者は、『聖書と典礼』の第1朗読、第2朗読、福音書はもちろんの事、集会祈願、奉納祈願、拝領祈願、最後は表紙も含めて味わい、その日のメインテーマをしっかりと掴み取る必要がある。」というお話にも納得いたしました。



## 8月30日聖書朗読リレーに参加して

江口

カトリックでは洗礼を受けると生まれ変わるという言葉に頼りに、洗礼を受けました。あの時に出会ったシスターが、聖書を読みなさいと暖かく抱きしめて下さいました。娘が幼稚園へ入園したのをきっかけに、教会での「ベビーとママの会」や「聖書クラブ」に参加し、生活の中で聖書に触れる機会が多くなりました。読んでいくと読みつなげていくというシスターのお話をもとに、私も読んでみようと思ひ、参加しました。

聖書を開いて読むとわかった!! イエス様は、こういう事を言っているのだなあと、自分の中で理解した気持ちになりました。でも、先日、神父様から、イエズスは極端な意味を示しているのではなく、抽象的に告げている。チャレンジする事もあるけれど、人々はイエズスのようにはできない。義をもって誠実に生きること、とお話をいただきました。

**イエス様はこの世で一人。**

**殉教者にはなれない。**

今母として、子どもと共に生きる喜び、家族と共に生きる幸せを感じ、信仰を大切に生きていきたいです。娘に「ママ、朗読リレーの感想文、なんて書いたらいいかな?」と話すと、「神父様、ありがとっ!! っ、書いとき」と言われました。その通りですね。

感謝しております。有難うございます。



やぎい神父  
司祭叙階おめでとうございます！

9月20日(土)14:00 東京イグナチオ教会で叙階式は行われました。

### 司祭叙階式に与って

道上

「案じずとも、全ては主が御旨のままにより良くしてくださる」といつもいわれている通り、台風  
の雨も上がり、主の祝福を感じながら、式が始まりました。

曇り空の為に、しっとりとした暗さの中から始まったお式でしたが「門よ扉を開け」という聖歌  
が始まった途端、まるでスポットライトをあびるかのように祭壇が明るく輝き、不思議なほどに十  
字架が鮮明に、まぶしい程にイエズス様が光り輝かれ始めました。この光景に主の御手、息吹、現  
存を感じずにいられなかったのは、私だけではなかったと思います。その光は、ごミサの中で、フ  
ッとまた暗くなったり、明るく輝いたり、大切な「時」にいつも照らして下さって、天からの  
祝福を感じ、感動的な時をすごさせて戴きました。御聖堂に溢れんばかりの方々のお祝いの想いと  
共に、この「時」を越えてこられた多くの神父様方からの祝福を受けていらした片柳神父様の、喜  
びに満ちたお顔に、聖霊の息吹を感じ、感動で涙がこみあげてきました。

マザーテレサや神父様のお母様のお喜びを感じ、家族5人が心満たされた一日でした。神に感謝！



「カルカッタ日記」片柳 弘史 S.J 著 (ドン・ボスコ社) 1000 円

片柳新司祭が「神父の道」を心ざしたのは、インド カルカッタでマザー・  
テレサと出会い、彼女からかけられた一つの言葉。

この本は、神父への道を歩み始める片柳 S.J の「心の葛藤」を日記風にま  
とめた一冊です。(本は教会受付にもあります)

## 片柳 弘史 新司祭の初ミサと祝賀会

六甲教会での初ミサは、あふれんばかりの信徒が集い、神さまに新司祭誕生の喜びと感謝の祈りをささげました。



新司祭の霊的指導者である柳田神父と。

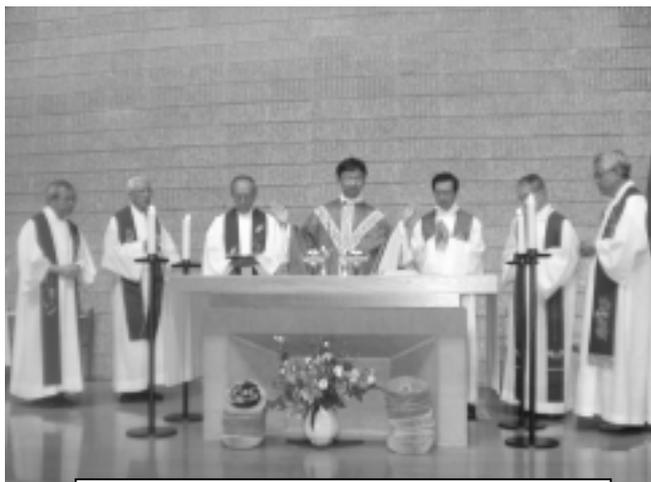
ミサ後は、イグナチオホールで祝賀会が開かれました。主役の片柳神父は子供たちと一緒に、ダンスで登場！生まれたての司祭の情熱と、元気な子供たちで会場は活気にあふれていました。



こどもたち：「質問！いちばんもてた時期はいつですか？」

片柳神父：「いつでもモテモテですけど、昨日と今日は特に人気がありますね。(笑)」

9月21日(日)10:00



片柳新司祭を囲み、他6名の神父の共同司式による荘厳なミサでした。



「神の愛の宣教者会」のシスターへご聖体を。



## ～・～・～ 各部紹介 ～・～・～

専門部会の各部会の紹介をしています。各部ではみなさんの参加・協力をお待ちしています。

### 三日月会の歩み

馬場

先月の「敬老の日」に第 29 回の総会を開きました三日月会は、故 武庫神父が 29 年前にご高齢者のために始められた会ですが、会の名称「三日月」が誤解されておりまして、淋しげに山陰に沈まんとする残月を意味しているのではないかと思っておられるかも知れませんが、そうではなくて、今も続けております毎月の例会を第 3 月曜日としたことによるものでして、総会も毎年 9 月の第 3 月曜日敬老の日で開催しております。

会員 468 名は古希を祝われた方々ばかりなので、お身体が不自由な方や、伴侶を亡くされた方、病気の方もおられますが、毎月の例会に出席される方々は皆さん大変お元気で、しかも勉強熱心でいらっしゃいます。

年一度の総会も楽しみにしておられる方が多く、無理をしても参加されまして、互いに再会を喜び合い、積もる話に夢中になっておられます。

三日月会が創設された当初の目的は、高齢になりますと、家に引きこもりがちに成るのが普通なので、勢い教会からも足が遠のくことにならないように、お年寄りの団欒の機会を作ろうとされたことのようにです。昭和 50 年初めの頃は、まだお年寄りの数も少なく、武庫神父を囲んで、楽しい語らいの場であったろうと思います。

最近では 70 歳を過ぎても多くの方々は、若い方の厄介になる気持ちには全くならない程お元気で、自分の特性を生かせる分野で役立ちたいとお考えの方が多くおられますので、一昨年総会で大司教が話されました信徒奉仕職の実践の一つとして、小教区評議会の意向に沿って、「日曜日に教会に来て、ミサに与った方々の語らいの場」を提供するべく、三日月会有志に諮りましたところ、多くの方々のご賛同を得まして、三日月会喫茶を始めました。

以上の経過を経まして、三日月会は毎月第 3 月曜日の午後 2 時からミサの後、例会では 30 分程度の勉強と楽しいビデオ鑑賞をしております。そして、第一日曜日は 9 時のミサ後から午後 1 時までは、イグナチオホールでの喫茶コーナーに、若い有志の方々の援助も頂き、全力投球して、快い疲れを伴います達成感を感じております。





## みんなの広場

みなさまの分かち合いの場になれば、と「みんなの広場」を設けました。みなさまから原稿を頂戴しなければ成立しないコーナーです。どうぞご参加下さい。

### 正しい戦争というのはいくつあるのでしょうか

山本

8月は日本カトリック平和旬間を迎え、毎年教会の企画に触れて熱く平和祈願しました。

9月11日は皆様ご存知のように、米国で同時多発テロが起きて7年目になります。犠牲者への祈りを捧げました。世界中の同情を集め、アメリカは2003年にイラク侵攻は成功したが、未だにアルカイダは姿の見えない敵となり、アメリカ兵士は一般人とテロリストを見分けられず、多くの一般市民を残酷に虐殺し、また多く爆弾を誤射してしまい、このことがイラク人の反感を買い、アルカイダの方へ参加しているという事です。米国の兵士達も、高卒位の若い人々が、「打て!」「殺せ!」と士官の命令に服従して、人を殺す戦争に参加して帰還してから、社会復帰が出来ず、PTSD(精神病)にかかる人が帰還兵の30%もいるとのこと。未来ある若者にとって何と苛酷な任務でしょう。

私事で恐縮ですが、私は太平洋戦争に13歳の時出会い、蒙古から終戦の翌年に引揚げて来ました。詳しく書く頁数がないのが残念ですが、兎角戦争による地獄を沢山見たり聞いたりして来ました。福岡県に上陸し、西南というキリスト教の学校に入り、主イエス様・聖書に出会って私は、「平和をあげよう」というお言葉に、真実を求め入信しました。以来50年になりますが、正しい戦争というものはいくつもないと思います。聖書は(神は)、戦争を起す元々の心は、憎しみ、疑惑、怒り、敵意、非難、嫉妬、欲張り、奴隷化、軽薄・・・等々を戒められています。神に近づいて、出来るだけ神の御国が栄える様な生活を信者は祈りと実行のみだと思っています。



### 「地区会」について私の考え

米村

9月の教会報の「みんなの広場」で、小林さんの「地区会について」を拝見しました。

小林さんの活動の実績や奉仕の精神は立派だと思いますが、この提案内容だと、おそらく現在の地区世話人の大半は世話役を返上したいと思うでしょう。

教会内の信徒会活動と宣教活動とは共に必要なものですが、「地区会は宣教活動だ・・・」と誰かが決めて、「ああそうですか・・・」と変更できるものではないと思います。

他の信徒会活動と同じく地区会活動も、自主的な努力と皆の協力によって成り立っている活動組織で、活動を教会の会議室から各地区の任意の場所で行っているわけですから、世話人の皆様は色々悩み、どうしたら魅力ある地区会活動が出来るのか・・・と考え、試行錯誤を繰り返し今日に至っているのです。

しかし地区会活動の現状は低迷し、活気のない状態であることは、残念ながら認めざるを得ません。この状態から脱却し、信徒同志の分かち合い・助け合いのサポーターになるために、私が提案したいのは以下の3項目です。

- (1) 地区会活動を教会内の縦割りの組織と同じように思い、沢山の信徒が参加し、盛り上がる事を期待し、立派な集会が出来る事を第一に考えてきた・・・だから参加者が少ないと意気消沈し次回

開催はなかなか計画できない。この状態は間違いで、「参加してくれた少数の人達とどれだけ分かち合えたか、欠席通知のハガキに書かれた現状を知らせてくれた短いコメントにどれだけを気を配れたか・・・」など、もっと話し合い、触れ合うことを重視する地区会にしたい。

- (2) 地区世話人の会合を2～3ヶ月に一度開き、世話人が地区の信徒達に何が出来なのか？よく話し合い、自分達で出来るサービスのメニューを作る。
- (3) このメニューをミサ中のお知らせや教会報などで広く皆に知らせて、活用されるよう積極的にPRする。地区集会を次第に、この地区会奉仕メニューの実行拠点に変えていく・・・。

六甲教会の信徒の皆様のご意見を賜わりたく、以上提案いたします。

## 主任司祭の地平線

“赤勝て、白勝て！”子供たちの運動会がたけなわです。天高く馬肥ゆる秋、食欲の秋、体育の秋、そして灯火親しむ候、読書の秋、瞑想の秋、芸術の秋・・・秋にはしたいことが沢山ですね。いつぞや脳細胞の働きについて、或る医師から伺いました。テレビを観る時の脳の働きを1とすると、ラジオを聞く時は（想像力を働かせるので）10、読書をすると100、文章を書くと1000倍も脳細胞が活性化するようです。しかし最近、良書をじっくり読むとか手紙を自筆でしたためるといった落ち着いた生活習慣が疎かにされているのではないのでしょうか。

例えば心のこもった手紙を自筆で書こうとすると、あらゆる知識・表現力・発想力などを発揮するので書く人の人格が現れ、しかも自分より相手のことを第一に考えると思います。この秋は、離れている家族や友に手紙を書いてみませんか。心が通い合った喜びと感動の余韻が残ることでしょう。家族宛・子供宛の場合には、是非信仰の大切さ・ありがたさについて書き添えて下さい。

実は、聖書というのは神さまが遠く離れている私たち一人ひとりのことを想い、全力を傾けて書き送って下さった手紙です。そのように聖書を受け止めてみると、毎日神さまから手紙を受け取っている喜び、神さまの愛情や親心を一杯感じるのではないのでしょうか。

2008年チャリティーバザー

「心からだれかのために」

10月26日(日) 10:30～

みなさまのご参加・ご協力よろしくお願いたします！

ゲーム、古本、古着、手芸品販売、包丁研ぎ etc.

カレー、おでん、焼きそば、焼き鳥、綿菓子、おにぎり etc.

new! マシア神父のスペインオムレツ

## 各部だより

各部の活動の連絡を記載いたします。教会活動の参考になさって下さい。

### 婦人会

- ・ 10月3日(金)初金ミサ 10:00
- ・ 10月26日(日)9:00ミサ後、10:30 チャリティバザー

お手伝い、全地区の皆様よろしくお願ひ致します!!

### 三日月会

例会 10月20日(月)14:00~ミサ

講演 マシア神父「祈り」

ビデオ鑑賞

喫茶 10月5日(日)9時ミサ後~13時

於：イグナチオホール

### 青年会

定例会 10月12日(日)12:30~

第5会議室にて

内容：「分かち合い」を予定しています。

(11:00のミサの案内係に当たっています)

尚、10月26日(日)はチャリティバザーがある為、定例会は行いません。

### 社会活動部

次回連絡会予定： 11月7日(金)10時ミサ後

## <お知らせ>

各部の活動の連絡ですが、参加を広く信徒の皆さんに呼びかける内容の記事を記載いたします。教会活動の参考になさって下さい。

### 【社会活動部より】

10/1(水)10:00 手芸の集い(第1・2会議室)

どなたでも参加ご自由です。

10/5(日)14:00 シナピス定例会(北須磨教会)

10/11(土)10時 炊き出し(イグナチオホールお台所)

小野浜グラウンドにて、配食やおじさん達のお話し相手だけでもOKです。

10/19(日)9時ミサ後 手作りコーナー(イグナチオホール)

お弁当・食料品・手作り作品等の販売

### Fr マシアの勉強会

10月6日(月)10:00AMより  
再開いたします。

### 【養成部より】

#### 1) 祈りの道場

日時： 10月10日(金)午前10時~午後3時  
午後3時よりミサ

指導： 英 隆一朗神父

場所： 六甲教会聖堂

#### 2) 哲学講座

日時： 11月1日午前11時~午後0時30分

講師： 聖トマス大学 奥村和滋教授

場所： 六甲学院生徒研修所

※ 講師の都合により、当初の予定より変更しています。  
ご注意下さい。

### ~社会活動部講演会~

日時： 11月16日(日)

場所： イグナチオホール

テーマ： 「裁判員制度とは？」

講師： 笠松健一氏

(大阪弁護士会)

「宣教者パウロのメッセージ」 ガルディーニ著 (女子パウロ会 2008年)

パパ様は今年を「パウロ年」と定められた。知ってか知らずにか、書店で聖パウロに関する著書を見ることが多くなったように思われる。

本書は異教の社会に生きる我々にとって、今年が「パウロ年」と定められたことの意味を理解するためにも格好の書である。特に最終 12 章は今、我々が何をしなければならないのかを、改めて示している。聖パウロの意味を知るためには、先に出版された「聖パウロ」(ドウコー著 女子パウロ会 2006年)よりも、本書の方がより直截的で理解し易い。

尚、「キリシタンと西洋音楽」(横田庄一郎著 朔北社 2000年)も現代のこの国に生きる我々がどう信仰を守るべきか、併せ読むと多くの示唆が得られる。但し、教外者の本を読む時は、カテキズムをしっかり踏まえていなければならない。

教会報の記事を読んでも、現代の信者はどれほど本を読んでいるのか、疑念を抱く。独りよがりには陥らないためにも、広範囲のまとまった本を読まなければならない。我々は信仰に生きることにあまりにも怠慢ではないだろうか。スポーツ選手たちと比べても。(ヨハネ 三好)

六 美 会 ( 絵 画 サ ー ク ル )

カトリック六甲教会に六美会が立ち上がって今年で 11 年目を迎えました。

現在 22 名の会員が、兵庫県日本画家連盟、神戸芸術文化会議の会員でおられる信国睦子先生のご指導のもとで、日本画のスケッチやデッサンで、お花や静物等々を楽しく学んでおります。なお、信国先生の作品は、イグナチオホールと 2 階会議室廊下に 2 点展示してあります。

最近是他教会の方も参加され、門を広げています。昨年は桜井神父様にモデルになって頂き、皆でデッサンに励みました。現在は前回に引き続き、バザーに出店するために、絵ハガキを作成しています。また、11 月 1 日から 13 日までイグナチオホールで行われる作品展に向けて、会員一同頑張っております。

これらの活動も教会のご協力を頂き、感謝しながら毎月第 3 金曜日の 10 時から 12 時まで、2 階会議室で活動しております。興味のある方は、どうぞ覗いて見てくださいませ。(糸原)



教室風景



先生の講評

< 10月の予定 >

|    | 教会暦                    | 教会行事  |
|----|------------------------|---|
| 1  | 水 聖テレジア(幼いイエスの)おとめ教会博士 |   |
| 2  | 木 守護の天使                |   |
| 3  | 金                      | 初金 7:00 10:00 ミサ                                      |
| 4  | 土 聖フランシスコ(アシジ)修道者      |   |
| 5  | 日 年間第27主日              |   |
| 7  | 火 ロザリオの聖母              |   |
| 10 | 金                      | 10:00 祈りの道場 (15:00 ミサ)                                |
| 11 | 土                      | 9:30 教会大掃除  |
| 12 | 日 年間第28主日              | 10:15 小教区評議会 17:00 海星病院集会祭儀                           |
| 15 | 水 聖テレジア(イエスの)おとめ教会博士   |   |
| 17 | 金 聖イグナチオ(アンチオク)司教殉教者   |   |
| 18 | 土 聖ルカ福音記者              | イエズス会再渡来 100周年記念日                                     |
| 19 | 日 年間第29主日 世界宣教の日       |   |
| 20 | 月                      | 14:00 三日月会ミサと例会                                       |
| 25 | 土                      | 12:30 地区シルバー大会(聖トマス大学).<br>17:00 19:00 主日ミサ(バザー準備のため) |
| 26 | 日 年間第30主日              | 7:00 9:00 ミサ 10:30 チャリティーバザー<br>17:00 海星病院集会祭儀        |
| 27 | 月                      | 11:00 ベビーとママの集い                                       |
| 28 | 火 聖シモン 聖ユダ使徒           |   |

編集委員のつぶやき

9月20日片柳新司祭が誕生。翌日の初ミサと祝賀パーティ、それはとても喜びに満ちたものでした。

神さまにご自身を捧げられた片柳神父、神さまに大切なご子息を捧げられた片柳神父のお母さま、お祝いに駆けつけられた「神の愛の宣教者会」のシスター。愛を实践されている方々の笑顔は美しい。心はさわやかな秋晴れとなりました。

FadA

|  |   |
|--|---|
| <p>教会報 11月号の発行は、11月2日(日)です。<br/>編集会議は10月26日(日)です。<br/>記事原稿は、10月19日(日)正午までに信徒会館<br/>受付へご提出願います。 (広報部)<br/><a href="http://www.rokko-catholic.jp">http://www.rokko-catholic.jp</a></p> | <p><b>カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会</b><br/>〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21<br/>電 話 078-851-2846<br/>F A X 078-851-9023<br/>発行責任者 桜井彦孝 神父<br/>編 集 広 報 部</p> |
|--|---|

★ パウロ年にあたり、大阪大司教区内の8箇所の教会が巡礼指定されています。  
巡礼される方の為に、あらためて教会のご案内を致します。

- |                |                  |          |
|----------------|------------------|----------|
| ① カテドラル聖マリア大聖堂 | (JR大阪環状線 森ノ宮駅下車) | 徒歩 約15分) |
| ② 尼崎教会         | (阪神尼崎駅下車)        | 徒歩 約15分) |
| ③ 住吉教会         | (JR住吉駅下車)        | 徒歩 約5分)  |
| ④ 姫路教会         | (JR姫路駅下車)        | 徒歩 約15分) |
| ⑤ 香里教会         | (京阪香里園駅下車)       | 徒歩 約10分) |
| ⑥ 高槻教会         | (阪急高槻市駅下車)       | 徒歩 約5分)  |
| ⑦ 岸和田教会        | (南海岸和田駅下車)       | 徒歩 約15分) |
| ⑧ 尾形町教会        | (JR和歌山駅下車)       | 徒歩 約20分) |

(明石教会「教会報」より抜粋)

★ 12月8日(月)[無原罪の聖マリアの祭日]は、六甲教会創設60周年にあたります。  
現在、60年を振り返り、写真展を計画していますが、「教会報12月号」に掲載する原稿も募集致します。  
60年前を振り返り、昔の六甲教会をご存知の方のお話も載せたいと思いますので、奮ってご寄稿下さい。  
(広報部)